

積極的に学び

地域の輪を広げたい

片桐勉さん(65歳)は、昨年の食生活改善推進員に委嘱されました。食について関心も強い片桐さんに、男性と女性が協力しながらお互いを高め合っていくには何が必要かお聞きしました。

食の問題に強い関心

推進員になっただききっかけはどんなことでしたか。



定年を迎えるにあたり、地域に対して何ができるだろうかと自分自身いろいろ考えました。最終的に行き着いたのが「介護」の問題だったんです。その問題を考えていく中で、食事、自然、老人の心のケアが大切なのではないかということに気がきました。特に食に関しては、以前からかなり関心を持っていたことなんです。

これまで、計画を立てていろいろな講座に幅広く参加してきましたが、どの講座も女性の占める割合が多い

わけです。ですから、食生活改善推進員になるのも全く抵抗なかったですよ。

推進員になるには

市が実施している健康大学を修了した人で、希望者ということですよ。

現在、男性の推進員は四人しかいません。もう少し人数が増えて、横の連絡を取りながら活動することができればいいですね。女性の中で男性もやっているんだということをもっと広げていきたいですよ。まだまだ自分自身勉強中ですが、

どのような活動をしているんですか。

保健センターや地区公民館で行われる栄養教室の運営、地区の文化祭などの各種イベントへの参加があります。また、市への協力事業として、講習会やセミナーにも参加しています。

お互いに

知恵を出し合って

女性と協力して活動を進めていくことになりませんが、男は仕事、女は家庭という考え方はどう思えますか。

基本的には男女共同参画を進めることは良いことと思っています。大切なことは、お互いに知恵を出し合いながら、思いやりの心を持って、できることをやるということではないでしょうか。いろいろ学んでくると、男は仕事で、女は家庭という考

えではいけないんだなという気持ちにもなりますね。

女性の中に積極的に入っていくことで、女性のほうも変わるのではないかなと思っていますよ。いい意味でお互いの気持ちを引き締まるということもありますから。もちろんお互いに辛抱することも必要なことですよ。

自分のために

続けることが大切

推進員の活動を通して感じていることは、

食生活のことも、いずれ自分に戻ってくることです。自分が暮らしていくためには、何をしたらよいのか、いつも考えながら行動しているんです。人のためというところにこだわるのではなく、自分のためということを基本に考えてやってみれば、続けられるのかなと思っています。

一日一日を楽しく生き生きと暮らしたいですから、自分の意見ははっきり言うことも必要です。年齢に関係なく男女がもっと言葉を交わすということも大切ですよ。他人の目を気にしていたら何もできません。

地域のことは大切と考えていますから、これからは、身近な人とうまく協力体制をつくりながら、できることはしていきたいです。学んだことを深めていきたいですね。継続すること、いつかは分かってもらえると思っています。